

# 専修学校教育の質保証と 第三者評価について

川口 昭彦

専門職高等教育質保証機構 代表理事  
大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授

2016.10.17

これからの専修学校教育の振興のあり方検討会議

## 専修学校教育第三者評価について

2

- 高等教育のパラダイム・シフト
- 保証すべき「質」とは？
- 大学等の認証評価制度
- 専修学校の質保証の方向性
- 専門職高等教育質保証機構の試行評価
- まとめ

## 高等教育のパラダイム・シフト

社会のパラダイム・シフト

日本の雇用環境の変化とグローバル化

「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ

高等教育質保証のパラダイム・シフト

## 社会のパラダイム・シフト

- 産業社会から知識社会へのパラダイム・シフト
- 学問や科学の進歩、先端化、細分化とサステイナブル社会 – 細分化した領域で産み出される知と社会が求める価値との乖離
- 予測困難な時代に向けて、想定を超える事態に対応できる新しい知に対する渴望
- 社会が人材に期待する資質・能力の変化(キャッチアップ型からフロントランナーへ)
- 日本の雇用環境の変化
- 職業教育および生涯学習に対する社会の期待

# 日本の雇用環境の変化

5

- これまでの一般的な雇用慣行の特徴
  - 新規学卒者の一括採用、長期雇用を前提とした企業内教育・訓練
  - 学校においては基礎的な知識・技能を身につけさせて、職業に必要な専門的知識・技能は、主に企業内教育・訓練をつうじて、仕事をしながら育成
- 指導する人材の不足
  - 非正規雇用の増加により、企業内教育・訓練に割く時間を圧迫
  - 厳しい経済状況のもとで人材育成に割く費用・時間を縮小
  - 企業内教育・訓練を実施する動機づけが低下
- 企業が人材育成を行う余裕を失っている。

QAPHE

# グローバル化

6

- メリット：チャンスの拡大
    - これまであった障害がグローバル化によって次第に取り払われることにより、チャンスが大幅に拡大する。
  - デメリット：不確定要素が増える。リスクが増大する。
    - 関係する国、社会あるいは人が増えることによって、これまでは想像もつかなかった事態が起こる可能性が高い。
    - そのリスクをどう最小化するかが課題となる。
    - リスクが顕在化したときの対処の仕方が問われる。
    - 組織の柔軟性を維持できなければグローバル化を生き残ることも難しくなる。
- リスクに柔軟に対応できる人材

QAPHE

# 高等教育のパラダイム・シフト

7

- 「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ
- 「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」へ
- 「何を教えるか」より「何ができるようになるか」へ
- 「授業内容や教育方法の改善」から「学習の質が向上したか、学修成果があがっているか」へ
- いかに学修成果を測定するか？ いかに説明責任を果たすか？

QAPHE

## 学習環境の変化

8

	教員中心の学習環境	学生中心の学習環境
クラスの活動	教員中心、一方向	学習者中心、双方向
教員の役割	事実の伝達者、専門家	協力者、しばしば学習者
指導の強調点	事実の暗記	関係性、問い、創造
成功として提示するもの	基準準拠	理解の質
評価	多肢選択	到達度評価、ポートフォリオ、パフォーマンス評価
テクノロジーの利用	ドリルと練習	コミュニケーション、アクセス、協力、表現

大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ『大学評価文化の定着 日本の大学は世界で通用するか？』（ぎょうせい、2014年）p. 30

QAPHE

# 高等教育質保証のパラダイム・シフト

9

- 「教育」重視、教員中心から、「学習」あるいは「学修」重視、学生中心へ
- 「インプット(入力)」「アクション(活動)」「アウトプット(結果)」中心の質保証から、「アウトカムズ(成果)」中心の質保証へ
- 「量(アウトプット)の時代」から「質(アウトカムズ)の時代」へ
- 入口管理(入学試験等)から、出口管理(卒業・修了判定)へ

QAPHE

## 次元の異なる質保証の対象

10

	具体的内容
インプット (投入)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果)	インプットおよびアクションによって、学校(組織内)で産み出される結果をさす。一般的に、数量的な結果を示すことが多い。
アウトカムズ (成果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

QAPHE

## 保証すべき「質」とは？

「質」に関する理解

質保証するための視点

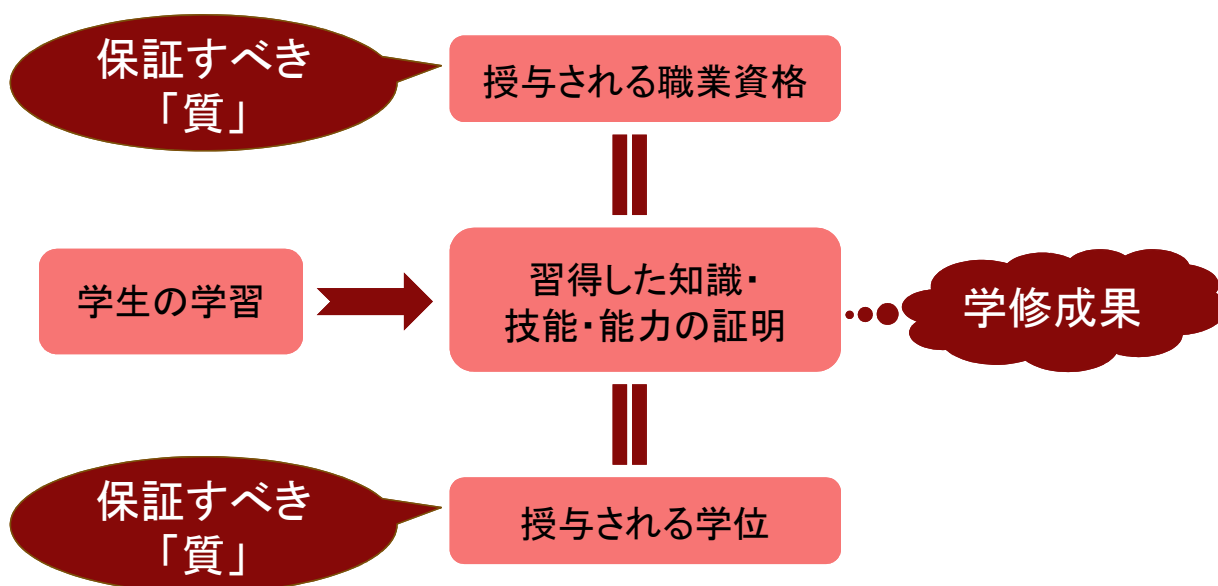
保証すべきは職業資格・学位の質

## 「質」に関する理解

- 決まった基準で判定する質であり、多様性という考え方が入る余地は少ない。質とは、欠点がないこと (Zero Defects) を意味する (製造業)。
- 欠点を最小限にすることのみならず、顧客に不満がないという視点が入る。質とは、顧客満足 (Consumer Satisfaction) を意味する (サービス業)。
- 高等教育 (職業教育) における質とは？？

# 保証すべきは職業資格・学位の質

13



QAPHE

## 質保証するための視点

14

- 卓越性(高い水準の質)
- 関係者の満足度
  
- 基準に対する適合性
- 目的に対する適合性
- 機関の目標の達成度

QAPHE

# 質保証の最重要課題は学修成果

15

- 教育 = 教授 (Teaching) + 学習 (Learning) であり、学生の学修成果 (Learning Outcomes) について社会に明示することが重要である。
- 期待される学修成果 (Expected Learning Outcomes) を明示する。
- その学修成果の達成状況 (Achieved Learning Outcomes) を定期的に分析する。
- その分析結果を社会に向けて発信するとともに質の改善・向上に資することが求められる。

QAPHE

16

## 大学等の認証評価制度

大学評価とは  
第三者による大学評価制度  
認証評価は機能したか？

QAPHE



# 大学評価とは

17

- 入口と出口のところのみでの評価
  - 偏差値に代表される入学試験の難易度
  - 就職のランキング
- 何を教えるのか？教育の水準は？学修成果は？（質の保証）
  - 在学中に得られる付加価値（知識、学力、技能、能力）は？
  - どのような教育が行われ、その水準は？、その成果は？

QAPHE

# 大学評価の歴史的経過

18

- 大学設置基準の大綱化と大学自らによる自己点検・評価の努力義務（1991）
- 自己点検・評価の実施義務化、評価結果の公表義務化、外部評価の努力義務化（1998）
- 大学評価・学位授与機構の創設（2000）
- 学校教育法により認証評価（機関別認証評価、分野別認証評価）制度の導入（2003）
- 専門職大学院制度の発足（2003）

QAPHE

# 第三者による大学評価制度

19

- 機関別認証評価
  - ▣ 機関全体(大学、短期大学、高等専門学校)が対象となる。
  - ▣ 7年ごとに評価を実施する。
  - ▣ 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- 専門職大学院認証評価(分野別認証評価)
  - ▣ 専門職大学院が対象となる。
  - ▣ 5年ごとに評価を実施する。
  - ▣ 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- 認証評価以外の分野別評価:医学教育、薬学教育、工学教育(JABEE)、リハビリテーション教育など

QAPHE

## 認証評価の目的

20

- 大学等における教育研究などの諸活動の質を保証する。
- 大学等における諸活動の質の改善・向上に資する。
- 大学等における諸活動の質について説明責任を果たす。
  - ▣ 第三者評価機関が果たすべき説明責任:大学等が実施している諸活動の質の現状分析と保証。
  - ▣ 大学等自身が発信する情報だけでなく、第三者評価機関による質保証結果も不可欠な情報である。

QAPHE

# 機関別認証評価の検証

21

大学評価・学位授与機構では、平成17(2005)年度から平成23(2011)年度までの第1サイクルに実施した大学機関別認証評価について、アンケート調査と評価結果の両面から分析し、検証結果を報告書としてまとめた。

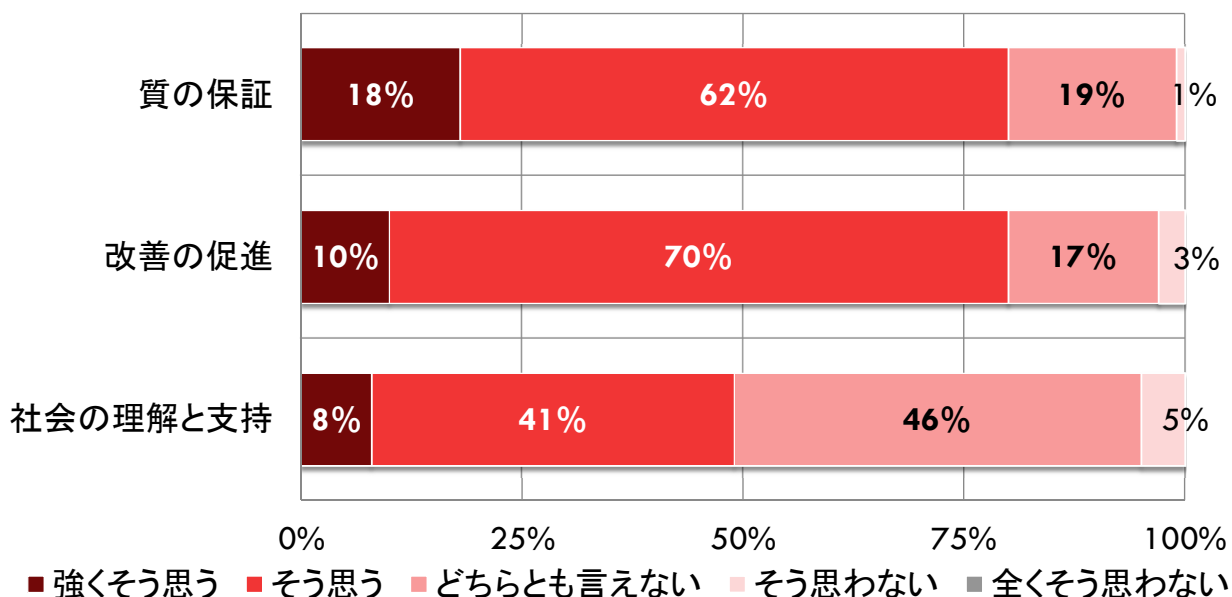
『進化する大学機関別認証評価 – 第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善 –』より抜粋

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/jouhou/\\_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6\\_12\\_soukatsu.daigaku.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/jouhou/_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6_12_soukatsu.daigaku.pdf)

QAPHE

# 認証評価の目的達成状況

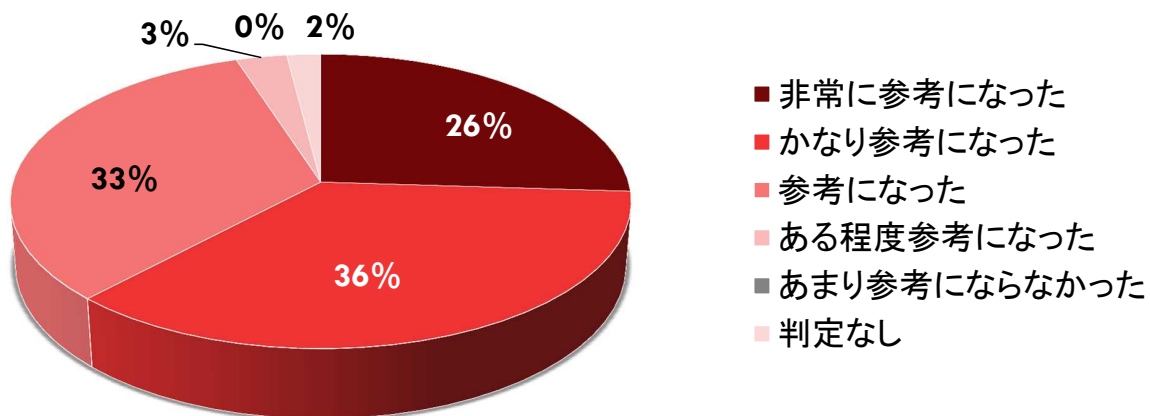
22



QAPHE

# 評価結果の活用(参考の程度)

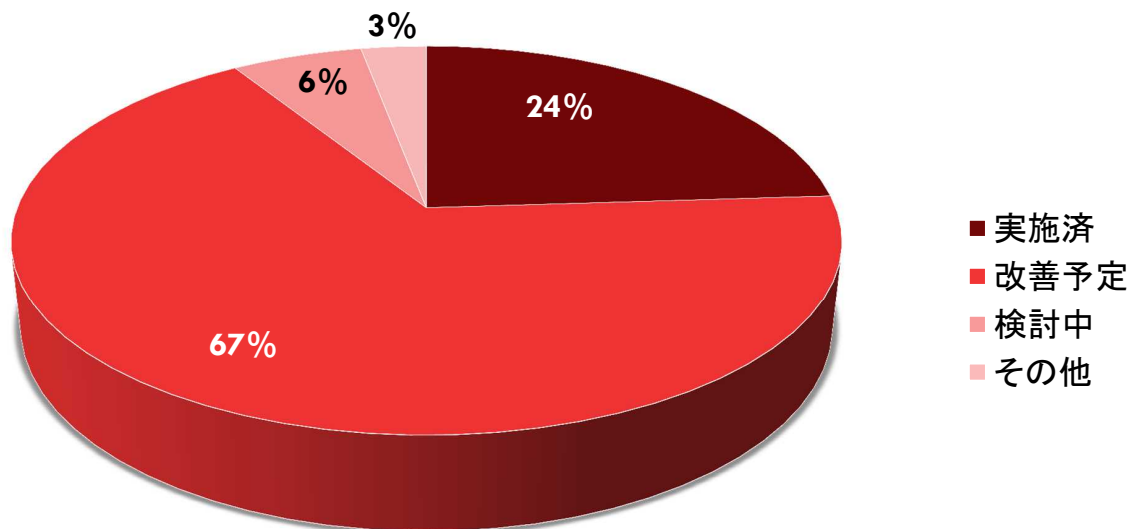
23



QAPHE

# 評価結果の活用(改善取組状況)

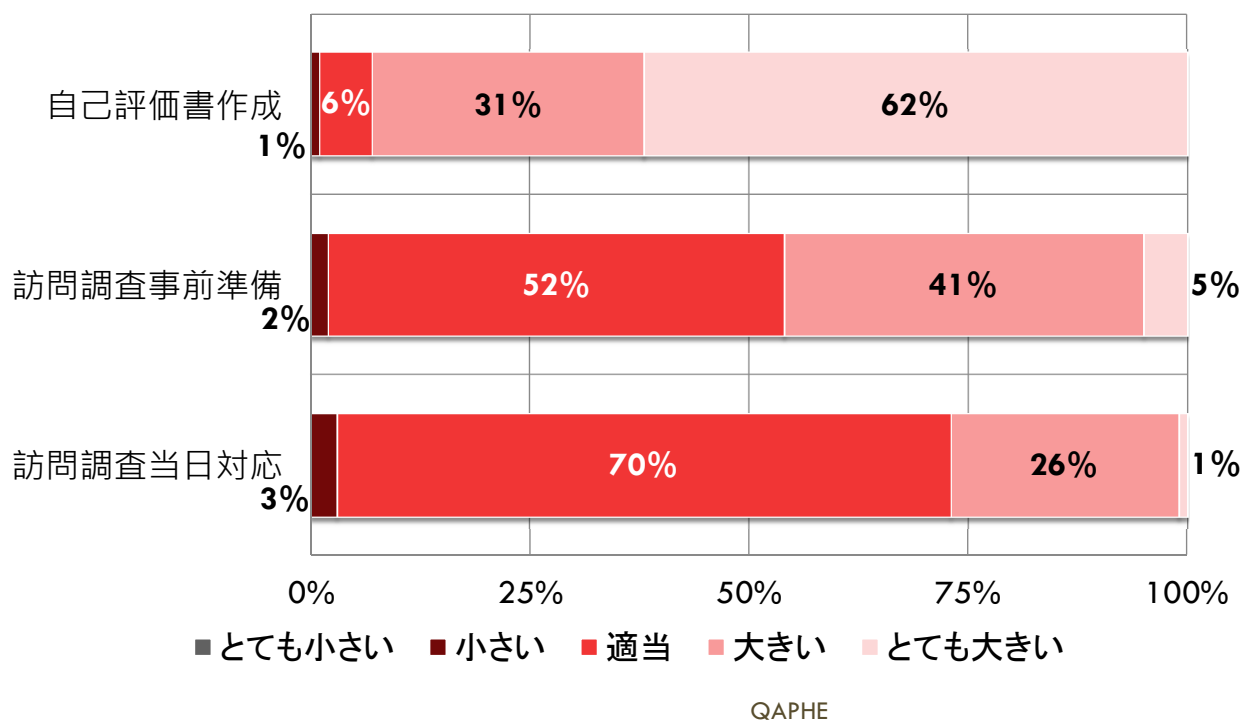
24



QAPHE

# 評価に費やした作業量

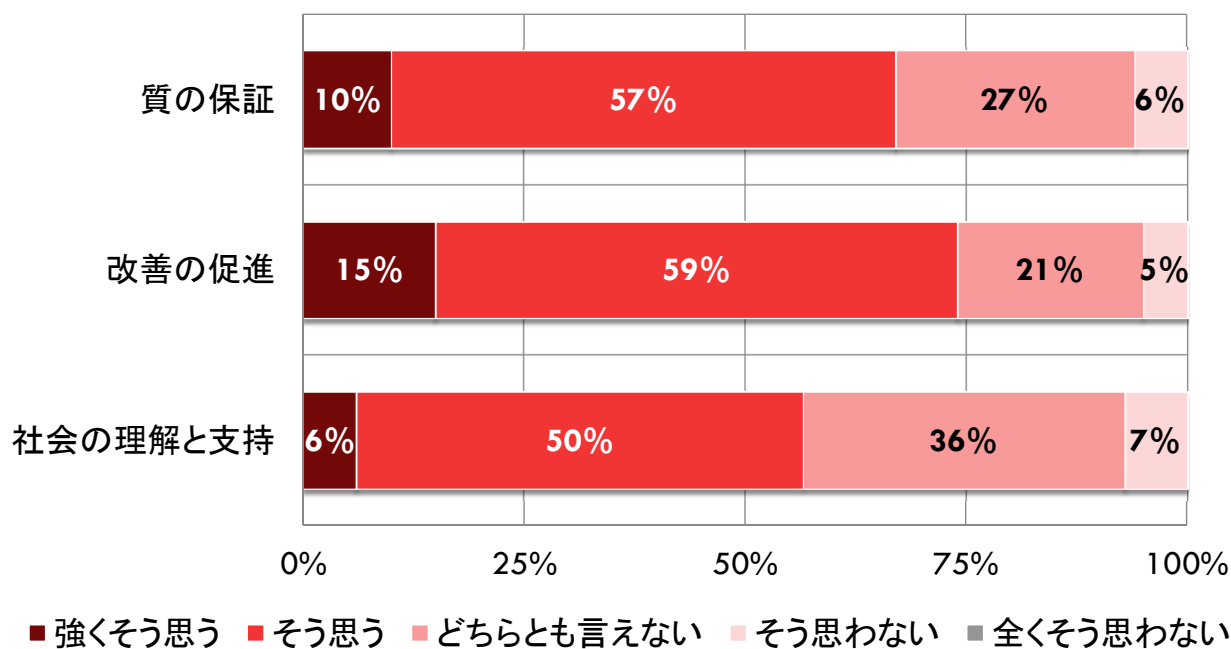
25



# 評価作業のコストパフォーマンス

(評価作業に費やした労力は認証評価の目的に見合うものであったか?)

26



# 認証評価の効果・影響

27

- 教育研究活動等について全般的に把握できた。
- 教育研究活動等の今後の課題を把握できた。
- 教育研究活動等の改善を促進した。
- 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した。
- 将来計画の策定に役立った。

QAPHE

# 認証評価の課題

28

- 説明責任(社会に成果を示す)と改善(質の向上に反映させる)という機能の両立は難しい。
- インプットとプロセス(アクション)に関する基準が、学習に関するアウトプットの測定やアウトカムズの分析よりはるかに重要視されている。
- 最低基準の指標が、卓越性指向の基準より広く使用されている。

QAPHE

専修学校の学校評価とその歴史

専修学校の求められる質保証

内部質保証システム

第三者質保証

## 専修学校の学校評価の歴史

- 自己点検評価・結果公表の努力義務(2002)
- 自己評価の実施、結果公表の義務化(2007)
- 学校関係者評価(保護者、地域住民等の学校関係者による評価)の努力義務(2007)
- 第三者評価の必要性に言及(学校評価ガイドライン[2010年改訂])
- 学校関係者評価が「職業実践専門課程」の認定要件(文部科学省、2014)

# 専修学校評価の三層構造

31

- **自己評価**:各学校の教職員が当該学校の理念、目的、目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- **学校関係者評価**:生徒、卒業生、関係業界、専修学校関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁などの学校関係者により構成される評価委員会等が、自己評価の結果を基本として行う評価
- **第三者評価**:学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

QAPHE

# 教育の質保証

32

- 小学校・中学校・高等学校等では、学習指導要領等によって教育内容の一定の質が担保されている。
- 大学については、設置審査等でインプットやプロセスを明確に評価(事前規制)した上で、自律性と学問の自由の中で行う質保証(事後チェック)である。
- 専修学校は実践的な職業教育を目的とするものであり、職業に必要な知識、技能、能力、態度など(アウトカムズ)に係る質保証の視点を踏まえた評価が重要である。

QAPHE



# 質保証とは

33

- 一般的に、質保証とはステークホルダー（利害関係者）に対して、約束通りの財やサービスが提供されていることを証明・説明する行為をさす。
- 高等教育の質保証の場合、ステークホルダーに対して、学校がめざす目標に基づいて、教育が適切な環境の下で、一定の水準とプロセスで実施され、成果をあげていることを証明・説明する行為をさす。

QAPHE

## 専修学校に求められる質保証

34

- 養成しようとしている人材像、期待できる学修成果などを明示する。
- 目的・目標としている人材像や学修成果が、どの程度達成されているかを定期的に評価する。
- 学校の質を自ら保証する内部質保証システムを構築し、それを十分機能させる。
- 積極的な情報提供（評価結果も含む）を行う。
- 第三者質保証では、その内部質保証システムが機能し、質の改善・向上が絶えず図られていることを検証する。

QAPHE

# 職業実践専門課程の認定要件

35

- 修業年限が2年以上。総授業時間が1,700単位時間以上または62単位以上
- 企業等との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成
- 企業等と連携して、実習、実技、実験または演習を実施
- 企業等と連携して、教員に対して、実務に関する研修を組織的に実施
- 学校の自己評価に加え、企業等と連携して、学校関係者評価と情報公開を実施

QAPHE

## 内部質保証システムとは

36

- 内部質保証を継続して行うための学内の方針・手続・体制等の仕組み。
- 教育の質保証の責任は、第一義的には学校自身にある。
  - それぞれの教育プログラムを提供する教員や部局自らがその質を保証する責任。
  - 学校として、その内部で提供する教育プログラムの質保証を行う責任。
- 同時に、教育内容や方法を創造的に進化・発展させ、継続的に質の向上を促進することが必要である。 — 質の文化 (Quality Culture)

QAPHE

# 第三者質保証機関の役割

37

- 教育(教授と学習)の質・水準についての最終的な責任は、専修学校自身が負っている。
- 第三者質保証機関は、以下の取組をつうじて、専修学校がその責任をどの程度満たしているかを評価し、報告するとともに、教育の質の継続的な管理・改善を奨励する。
  - 専修学校を対象とした第三者評価を実施する。
  - 専修学校が期待事項を満たしているかどうか、また、どのように満たしているかについて報告書を公表する。
  - 教育の質の維持・向上のための専門家による指針を提供する。

QAPHE

38

## 専門職高等教育質保証機構の試行評価

試行評価の目的

基本の方針

評価基準

評価体制

スケジュール

検証結果

QAPHE

# 評価事業に関する資料

39

- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行評価基準要綱
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行自己評価実施要項
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行評価実施手引書

上記資料は、質保証機構ウェブページ  
(<http://www.qaphe.jp/kijunyoukou2.html>)に公表されている。

QAPHE

## 試行評価の目的

40

- 専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に基づいて、専修学校職業実践専門課程を定期的に評価することによって、その教育活動の質を保証する。
- 学校の教育活動について多面的な評価を実施し、評価結果を当該学校にフィードバックすることによって、その教育活動の質の改善・向上に資する。
- 学校の教育活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくために、その活動の状況を多面的に明らかにし、それを社会に示すことによって、社会的説明責任を果たす。

QAPHE

# 基本的方針

41

- 質保証機構が定める評価基準に基づく評価
- 学修成果を中心とした評価
- 学校の個性の伸長に資する評価(学校の目的・目標を踏まえた評価)
- 自己評価に基づく評価
- 根拠資料・データに基づく評価
- 透明性の高い開かれた評価(意見申立て制度)

QAPHE

# 評価基準

42

評価基準は、五基準から構成され、基準ごとに基本的な観点(24項目)が設定されている。

- 基準1 目的・目標の設定および入学者選抜(5項目)
- 基準2 専修学校設置基準および美容師養成施設指定規則の適合性(8項目)
- 基準3 職業実践専門課程の選定要件の適合性(3項目)
- 基準4 内部質保証(4項目)
- 基準5 学修成果(4項目)

QAPHE

# 評価体制

43

- 評価委員(10名)を2チームに分けて、1チームが3校を担当した。
- 評価委員会の構成:美容業界関係者、美容組合関係者、高等学校関係者、厚生労働省関係者、大学評価経験者
- 評価委員の第三者性は十分確保した上で、研修を実施した。

QAPHE

# スケジュール

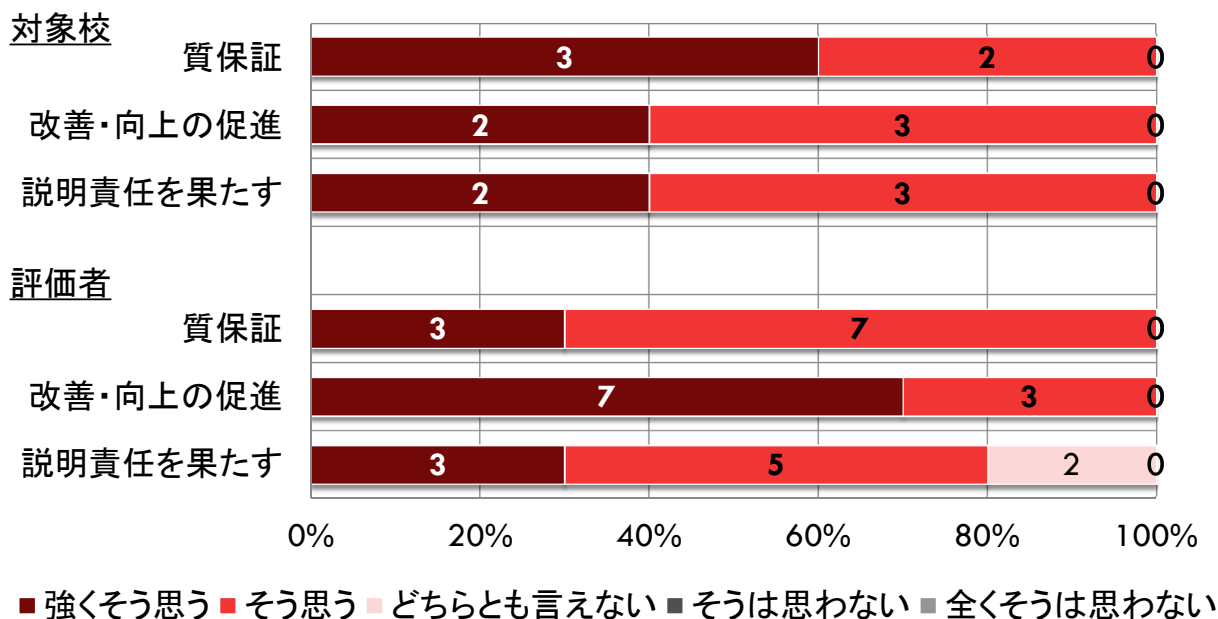
44

- 第三者評価に関する説明会(2015.2.26)
- 第三者評価の申請受付(2015.3)
- 対象学校の自己評価担当者に対する説明会・研修会(2015.5.20など)
- 質保証機構の評価者の研修(2015.8)
- 自己評価書の提出(2015.8末日締め切り)
- 訪問調査(2015.11)
- 評価結果(案)の対象学校への通知(2015.12)
- 評価結果(案)に対する意見の申立て(2016.1末日締め切り)
- 評価結果の確定・公表(2015.3下旬)

QAPHE

# 評価基準および観点の適切性

45



QAPHE

46

## まとめ

専修学校の第三者質保証システム

質リテラシー

何のための学校評価か？

QAPHE

# 高等教育における質保証システムの構成

47

- 内部質保証
  - 高等教育の質の維持・向上、職業資格・学位の水準の保証については、学校自身に責任がある。
  - 学校が「自己点検・評価のための自主的な評価基準や評価項目を適切に定めて運用する内部質保証体制」を構築する。
- 第三者(外部)質保証(公的な質保証システム)
  - 設置基準や関係法令等
  - 設置認可(事前規制)
  - 認証評価(大学の場合、事後確認)

QAPHE

## 専修学校の第三者質保証システム

48

- 専修学校設置基準、関係法令および職業実践専門課程の認定要件に適合していることを認定する。
- 学校(あるいは課程)が目的・目標としている学修成果が達成されているかどうかを評価する。
- 学校が機関内部の質保証体制を整備し、それが機能し、絶えず質の改善・向上が図られているかを評価する。

学修成果 + 一定の水準・標準 = 学修成果を基盤においた質保証

QAPHE



# 質リテラシー (Quality Literacy)

49

- 学校には、恒常的な質の改善・向上を図る能力が求められる。これには、つぎの二つの側面がある。
  - 組織文化的側面：質に関する価値・信念・期待・責務が組織内で共有されている(学内の共通認識)。
  - 組織運営的側面：質を向上し、構成員の協働体制やプロセスを有する(学内の運営組織)。
- 学校がもつべきは、「質の文化 (Quality Culture)」あるいは「質保証文化 (Quality Assurance Culture, QA Culture)」

QAPHE

## 何のための学校評価か？

50

- 学校における諸活動の質改善・向上 (Quality Enhancement) と質保証 (Quality Assurance) が目的である。
- 「評価」は、上記の目的を達成するために必要な手段である。評価そのものが目的化してはならない。
- 学校の教育活動に関して説明責任を果たす。

QAPHE

# Quality Assurance

## Trust and Recognition

51

- Trust
  - ▣ 信頼、信用：社会の信頼 (Public Trust)、相互の信頼 (Mutual Trust)
  - ▣ (信頼により生じる) 責任、義務
- Recognition
  - ▣ (人・ものをそれだと) 認識、識別 ⇒ 個性化
  - ▣ (業績などへの) 評価、称賛 ⇒ Evaluation
  - ▣ (組織・文書などへの法的な) 承認、認可 ⇒ Accreditation

QAPHE

## 相互の信頼から社会の信頼へ

52

- 第三者質保証においては、学校と質保証機関の相互信頼 (Mutual Trust) が、基本となる。
- 学校の自己点検・評価および学校関係者評価の積み上げを踏まえた第三者質保証でなければならない。
- 学校自らの「内部質保証」および第三者による「質保証」が、社会の信頼 (Public Trust) につながる。
- 「質」の最も重要なものは、学修成果 (学習者が身につけた知識、技能、能力、態度など) である。

QAPHE

# 参考文献・資料

53

- ・ 川口昭彦(独立行政法人大学評価・学位授与機構編集)『大学評価文化の展開 — わかりやすい大学評価の技法』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2006年
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構編著『大学評価文化の展開 — 高等教育の評価と質保証』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2007年
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構編著『大学評価文化の展開 — 評価の戦略的活用をめざして』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2008年
- ・ 川口昭彦(独立行政法人大学評価・学位授与機構編集)『大学評価文化の定着 — 大学が知の創造・継承基地となるために』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2009年
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構編著『大学評価文化の定着 — 日本の大学教育は国際競争に勝てるか?』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2010年
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構編著『大学評価文化の定着 — 日本の大学は世界で通用するか?』大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ、ぎょうせい、2014年
- ・ 川口昭彦(一般社団法人専門職高等教育質保証機構編)『高等職業教育質保証の理論と実践』専門学校質保証シリーズ、ぎょうせい、平成27年

QAPHE

## 謝 辞

54

専修学校職業実践専門課程の第三者評価試行は、文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業の一環として実施された。

平成26年度：評価基準要綱、自己評価実施要項、評価実施手引書の作成、説明会開催。

平成27年度：第三者評価試行を実施(6校)

平成28年度：27年度に実施した第三者評価試行の検証。自己評価担当者の研修。評価基準要綱、自己評価実施要項、評価実施手引書の英訳版作成。アジア太平洋地域三カ国との連携を検討。

QAPHE

ご清聴ありがとうございました。

QAPHE

---